

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300116		
法人名	株式会社マジスティック		
事業所名	芦刈紀水苑		
所在地	小城市芦刈町大字永田3220-2		
自己評価作成日	平成30年1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年4月12日	外部評価確定日	平成30年6月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成15年に開設し、今年の夏16年目を迎えます。地域の中に定着し、静かな環境で生活をされています。医療機関との連携も取れており、24時間対応をしてもらいながら可能な限り、苑での生活を続けられています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は六角川に架かる住ノ江橋のたもとの集落に位置しており、間もなく、開設後15年を迎えようとしている。職員の中には開設当初からの人や勤務歴10年前後の人もあり、家庭的で和やかな雰囲気がつくられている。「地域との交わりの中でゆっくり健やかにお互いを尊重しあう」を理念として、利用者への感謝と敬意はもちろんだが、職員間でも、お互いを尊重しながら意思の疎通を図り、利用者が健やかに安心して暮らせるように一丸となって支援に取り組んでいる。インフルエンザ等の感染症予防には細心の注意を払っており、手指の消毒や換気を始め、便の処理に消毒剤を使用したり、居間や各居室には温湿度計を設置して薬剤入りの加湿器を使う等、予防に努めている。また、代表者や管理者は職員の健康管理にも留意しており、出勤時には、体温や体調、手指の傷等のチェックも行っている。日々の事業所の様子は、ラインを通して代表者を始め休みの職員に伝えられ、情報の共有が図られている。浴室には暖房設備とリフトが設置されており、冬場にも安心安全な入浴支援が行われている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交わりの中でゆっくり健やかにお互いを尊重しあう」を理念とし実践している。	地域密着型サービスの役割を踏まえて「地域との交わりの中でゆっくり健やかにお互いを尊重しあう」を理念としている。職員の採用時には意味内容を説明をし、また、職員会議でも話し合う等して共有を図っている。玄関や居間の目に付きやすい場所に明示もされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	15年の中で、「あるのが当たり前」と言っただけしている。今後は行事を通してますます交流を深めたい。	散歩の時には近隣住民と挨拶を交わしている。自治会にも加入はしているが、回覧板は届けられておらず、清掃活動等も免除されており、地域の人達との触れ合いの機会が少なく、積極的な交流には至っていない。	今後は、回覧板も届けてもらえるようにして、地域活動や住民との関わりを積極的に持ち、利用者共々地域の一員として交流が推進されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に対する発信は少ないので、運営推進会議で取り上げ、役に立てるようにしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	29年度は4回の会議を開催した。新しく市役所の方も参加をしていただいている。	今年度は4回開催。運営推進会議のメンバー(行政職員、地域代表、家屋等)の十分な参加を得るまでにも至っていない。会議の内容は、質疑応答がメインである。4回の内1回は、火災時の通報・避難等の訓練のみが実施されている。	運営推進会議の意義や役割等の再確認、及び、メンバーの再検討を行い、サービス向上に繋がる課題や改善に向けた話し合いの場にもなることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の開催に加わってもらったり、生活保護関係の担当者との連携も取れている。	代表者は地域包括支援センターを訪問し、事業所の状況を伝えたり、事業所の案内を置かせてもらう等している。また、行政主催のネットワーク(医療・介護・薬剤関係)の勉強会に参加をし連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については理解をしている。社会で起きている事件を踏まえ、防犯上、玄関の施錠については実施をしている。	職員は勉強会等を通して、身体拘束の弊害や禁止行為を理解してはいるが、一昨年の他県での事件を受け、安全のために玄関は日中も施錠しているが法律上拘束に当たることは理解しており、利用者の外出気配時には開けて一緒に戸外に出ている。玄関の施錠については、家族にも説明し理解は得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	FC勉強会にて虐待について学ぶ機会を得た。利用者等については、表情などの観察をし、虐待に当たることがないか注意をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今期は制度について学ぶ機会がなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	充分時間を取り、説明を行うようにしている。疑問点については、いつでも尋ねてもらえるように言葉をかけている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の用意はあるが、なかなか入らないのが実情である。面会時等に状況説明をしながら意見などを求めるようにしている。	面会時や介護計画の見直し時には、必ず家族に声掛けをして意見や要望等を尋ね、要望等が出された時には、速やかに検討し対処している。家族会も設立しており年1回の集まりを持っている。また毎月、利用者や事業所の様子を便りで届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場主導で運営をしているが、設備や備品、方針についてはスタッフ会議時、もしくはその時々で意見を聞き、反映している。	代表者や管理者は、毎月の職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や提案等を聞き、運営に反映させている。職員は気兼ねなく意見や提案等を述べている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入居者数による報酬なので、厳しい部分があるが、その中でも手当や忘年会、勤続賞などを設け、働き続けられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けたり、未経験者に対する研修はかなり時間を使ったり、勤務中に細かく指導したりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	FC勉強会や交流研修、管理者研修などの場があり、交流できている。忘年会ではグループ企業職員が集まり、現場の話をすることもある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病院からの紹介で入居される場合が増えていたので、入居希望の話ができた時に面会に向いたり、困りごとを把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時に現状をお聞きしたうえで、家族の思いなどを把握するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の情報や家族、本人の状況を基に必要なサービスの把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵を持つ先輩として接し、いい関係づくりに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回の便りや面会時、状態報告時を大切にしながら利用者を支えられる関係づくりに努めている。職員の言葉に耳を貸されにくい時にはご家族から話してもらい、素直に聞き入れられたこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域から離れた場所に入居された場合には馴染みの場所との関係が途切れる場合もある。希望される場合、人との関係を絶たなくていいように面会などには当然応じている。入居期間が長くなれば、住み慣れた場所であっても馴染みの人は減っていったと家族が言われていた。	知人の訪問時には湯茶を供し、ゆっくりと過ごしてもらえるように配慮している。また、家族の協力を得ながら、通院時に自宅に回ってもらったり、墓参りや法事等への参加を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性はあるが、お互い会話をしたり、かわりを持ったりされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後、体調が悪化されたときに入院先から連絡があったり、1周忌が終わったとあいさつに来ていただくこともあった。良い関係づくりができていた結果だと思われる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向には沿うように努めている。希望が出ないことが多いので考え、対応している。	日常の会話や表情等から意向や希望等を把握している。表出が難しい時には、言葉を選ぶ等、会話を工夫しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から生活歴を聞いたり、入居前の状況を聞き取り、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通して状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本、担当者は決めるが、すべてのスタッフからの意見を基に介護計画書は作られている。家族の思いも反映している。	本人や家族の意見や希望等を確認して職員間で話し合い、本人本位の介護計画を作成し、6カ月毎の定期的な見直しを行っている。利用者の状態に変化が生じた時には、速やかに見直しを行い、現状に即した介護計画で支援に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の見直しにつながるような記録の仕方やアセスメントとなるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしてできる事は限られるが、外部の方と相談しながら、できる支援には努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力を発揮できることはかなり難しいが、地域資源を活用し、刺激となり暮らしていける様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に介護の度合いにより往診をしていたかどうか決まっている。受診の場合は基本、家族対応だが、状態をきちんと伝えられるようにしている。全入居者、事業所負担で月2回の訪問看護は受けられており、異常時には訪問看護の看護師を通じて、主治医につながる仕組みになっている。	利用者や家族の希望される主治医の受診を支援しており、主治医の変更も家族の希望で行われている。通院は家族に同行してもらっているが、適切な受診ができるように密に情報交換を行っている。協力医療機関からは、2週間に1回の訪問診療も行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「いつもと違う」に気づき状況を伝えられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後しばらくしてから面会をしたり、医療関係者との連絡は行っている。退院に向けてのカンファレンスには積極的に参加をし、情報収集に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針を定め、事業所としてできることを家族、医療関係者と共に話し合いながら最期まで施設にて過ごされるようにできる限りのことを行っている。	入居時に「重度化や看取り介護に関する指針」を説明し、最後まで事業所での暮らしが継続できることを伝えている。終末期を迎えられた場合には、改めて、看取り介護の指針の説明を行い、家族の意向を確認している。看取りの支援に当たっては、随時家族の意志を確認しながら、事業所・家族・医療機関・薬剤部間で連携し、家族の意志を尊重した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置の研修は受けていないので来年度は計画に入れたい。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と共に避難訓練を行った。避難経路の確認で、スタッフにて避難場所まで歩き、時間をはかってみた。地域の消防団の方は協力的で、通報装置の1番目に登録がなされている。	年に2回、昼夜の火災を想定した、通報、避難等の訓練を実施しており、今年度の訓練には、消防団2名、近隣住民1名の参加が得られている。居室のドアや壁には、万一時の避難確認用の目印や利用者の移手段を明示している。	
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアの中で一番気をつけている部分である。「つい」をなくすように気をつけている。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、親しさの中にも節度ある優しい言葉かけや対応を行っている。気になる言葉かけ等があった時には、代表者や管理者が注意指導を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表せる方は少ないが、どちらかを選べるような言葉かけで働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の一日の流れはあるが、1人1人のペースで生活されるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられるように鏡やブラシを用意している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には、お正月のおせち料理の盛り付けをしてもらったり、一緒におやつ作りをしたり、水栽培の野菜を収穫したり、できることをしてもらっている。	おやつは利用者と一緒に作ることもあるが、汁物以外の副食は調理された宅配物を利用している。食事の時には、職員も一緒にテーブルを囲み同じ物を食べ、食事を楽しんでもらえるように支援している。利用者の力を活かして、ホワイトボードに献立を書いてもらったり、テーブル拭き等を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日把握している。水分に関してはとろみをつけたり味を変えたり、あの手この手で努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助をしたり、定期的な義歯洗浄をしたりして口腔ケアに努めている。必要に応じて口腔ケアスポンジなどを使い乾燥予防や残渣物に注意をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレにて排泄できるように支援している。排泄パターンやしぐさにて排泄のタイミングを見落とさないように心がけている。主治医に相談し、下剤などで排泄がスムーズになる様になったり、水分量にも気をつけている。	トイレについては、自立している方もおられ、一人ひとりの排泄パターンや習慣等に合わせ、日中は全員をトイレでの排泄で支援している。下着も布製やリハビリパンツ等、利用者に応じたものが使用されている。なお、誘導時には、自尊心に配慮した声掛けがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量には特に注意をし、スムーズに排便できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は週3回の入浴としている。リフト浴の設備もあり、より安全に入浴できるようにしている。職員の負担も軽減できている。	週3回の入浴を基本として支援している。入浴を嫌がられる時には、無理強いせず、タイミングをはかったり言葉かけを工夫する等している。浴室には暖房設備やリフトが設置されており、冬場にも安心安全な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間浅眠の方の居室の並びに気を付けたり、ちょっと休息用にリビングのベットやソファアを使用できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による管理を受けているが、担当スタッフを決め、内容を把握するようにしている。不明点はすぐに薬剤師にたづねられる。2重、3重のチェックで誤薬を防ぐ努力をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴と現在が直結することは少ないが、施設での生活のなかで楽しみを見つけられるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方の協力で外出することはできていない。季節の良い時は日常的に散歩などは行っている。行事としての外出はなかなかできていない。	気候の良い時季には、散歩や日向ぼっこを行っている。	外出は気分転換やストレスの発散、五感刺激の貴重な機会でもあり、その人らしい暮らしにも繋がるものであるから、一層の取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おもい程度に現金を所持されている方はおられるが、施設として管理はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望で電話をかける方には応じている。入居当初は携帯電話を持っておられたが、使わずに充電しているだけで終わるようになった。手紙のやり取りも家族に投げかけたが、続かないことが多かった。受け取った年賀状を壁に飾ってあげると喜ばれていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	わかりやすい表示をしている。見学に来られる際にわかりにくかったので、リビングの窓に飾りをするようにした。季節の飾りをさりげなく取り入れたり、職員手作りの飾りなどを飾ったりしている。	事業所内は掃除が行き届いており、気になる匂いや空気の淀みもなく、調度や手作りの飾り等が家庭的で和やかな雰囲気を見せている。居間兼食堂の気温や湿度の管理を小まめに行う等し、インフルエンザ等の感染症予防に努めている。また居間には、運動器具がおかれ、いつでも使用出来るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を考えたり、座る位置により一人になったり話ができる場所だったり、広いリビングを有効に使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んでよいことは入居時に伝えている。趣味のものを持ち込んだりしながら思い思いの空間となっている。	職員は家族に利用者の馴染みの品の持ち込みを勧めたり、物品の位置を一緒に考える等して、その人らしい居室作りを支援している。居室には、趣味のギターや家族の写真、時計、ラジオ、棚、タンス、カレンダー等が見受けられる。各居室にも温湿度計を設置し、また、利用者の機能に合わせて、転倒防止の見守り策としての人感センサーをベッドの端に設置している。外に面する窓は、自由に全開できない仕組みの鍵が設置されている。	利用者に危険性がない限り、不安感や閉塞感への配慮、及び、万一の災害時等に備えても窓の開閉は自由にできる状態が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないように注意したり、わかりやすい表示や言葉かけで安全に生活できるように配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない